

ボランティア魂 第2回

「さんてつ・北リアス緑市」実行委員会 (久慈市)

三鉄の早期復旧を願う



▲津波で流された線路
▼普代駅に置かれた車両
車内には「つながるんだるま」が並んでいるが見える



車内に置かれた「つながるんだるま」

●地域の小さな良さを発見する……

NPO法人久慈広域観光協議会で先頭に立って活躍する貫牛利一さんは、「よそのいいところばかりに目がいったこともありました。」と言う。ところが今は、「足元を見てみたとき、ここは、いいものだらけだなということが分かりました。それに気づいてから、地域づくりに奮闘するようになりました。小さなものからでも、地域の良さを伝えていこうと思えました。」と振り返る。

例えば、野田では昔、海水から塩を作っていた内陸に運んでいた。そういう先人が受け継いできたものを、今の時代につながる必要がある、と言っている。昔の歴史を今によみがえらせて、未来につなげる活動が地域に求められていると熱意を示す。

●三陸鉄道は地域資源……

三陸鉄道が、公共交通として受け継がれてきた必要性を改めて問い直してみても、地域資源として地域の人が支えていくことが必要だと、貫牛さんの三陸鉄道への思い入れは熱い。「三陸鉄道の魅力を全国の人に伝えることによって、地元もいきいきすると思います。積み重ねてきたことが震災によってゼロになったショックもありますが、また積み上げていくのは地域の私たちがありません。前を向いて地域の人が活動することで、新しい地域ができていきます。動けば動くほど地域は元気になっていくものだと思っていて、それこそ牛歩のごとく進んで行きたいです。」貫牛さんは三陸鉄道の復興に

●力を注ぐ決意を語る。

被災を免れた路線は、震災の5日後に運行を再開した。「この運行によって、地域の私たちは復興に向けた勇気を与えてもらいました。まだ短い区間だけですが、列車の音を聞くだけでも地域の人は勇気付けられています。」三陸鉄道は、地域の大きなよりどころになっているようだ。

「一人ひとりが地域の良さに気が付いて、それを伝えていく行動に移していくことが大事だと思います。」三陸鉄道以外にも、県北のこの地域にはたくさん海の幸、山の幸があることを貫牛さんは強調する。

●にぎわう「さんてつ・北リアス緑市」……

6月から11月まで毎月1回、三陸鉄道の久慈駅などで「さんてつ・北リアス緑市」が開催され、地元の特産品や野菜、菓子などが販売された。このイベントは、NPO法人久慈広域観光協議会、久慈商店街、三陸鉄道、陽だまりWATERなどが実行委員会を作り実施したもので、緑市では地域の特産物販売や餅まき大会が開かれるなど、にぎわいを見せた。また、このイベントに寄せられた義援金や収益の一部が三陸鉄道に贈られた。

NPO法人やませデザイン会議の川代明寛さんは、「三陸鉄道の復旧に向けた機運も高まり、同時に地域の活性化にもつながりました。復興を念願して来てほしいです。」と三陸鉄道久慈駅の橋上駅長は語る。

震災の前から三陸鉄道は地域の支援があったが、震災以降はその支援の輪が一層大きくなっている。

「地域のNPOの皆さんは、本当に心から三陸鉄道を応援してくれています。さんてつ・北リアス緑市でもそれを感じました。」と橋上駅長は感謝する。

●地域の「絆」、観光のインセンティブ……

鉄道は、人と人を結ぶものであり、地域住民の足でもある。また、鉄道は、観光客に第二のふるさとを与えることもあるなど、今後もなければならぬインフラだ。そして、三陸鉄道の復旧は、震災からの復興のシンボルになる。「三陸鉄道としても、県北のこの地域

ただいたお客さんと、出店者や商店街の皆さんがつながってもらえました。」と喜びを語る。

復興を祈念するユニークなイベントとして、野田塩を使ったおむすび作りコーナーが設けられた。これは、参加者が沿線の駅で採れる海産物などを具にして「陸中野田駅から先が結ばれるように」との願いを込めておむすびを作るイベントだ。野田村特産の福来豚(ふくぶた)を使った「復旧(ふく)サンド」も100個限定で販売され、人気を集めた。

●だるまで復旧を祈願……

なかでもユニークな取り組みは、さんてつ復旧祈願だるま「つながるんだるま」の製作・販売だ。三陸鉄道のレールをつなげようという思いからアイデアが生まれた。普代村銅屋の三陸鉄道普代駅には、震災から半年間、停車したままになっていく車両がある。列車は震災時、乗客・乗員十数人を乗せて白井海岸駅から普代駅に向かっていた。列車自体は被災を免れたものの、前後の路線が被災したため、車両は普代駅に置かれたままになっている。「寂しい姿をどうにかしたいと思っていました。」と川代さんは振り返る。

この車両を復旧のシンボルにしようという願いのもと、車両の中に人が乗っているように「つながるんだるま」を飾るアイデアが生まれた。八戸や盛岡などからも参加した親子らがオレンジ色のだるまに「早く電車が通りますように」などとメッセージを書き、運転席や乗客の座席にもっと入り込んで、地域の皆さんと話し合いながら、地域のためにお役に立てる事業を企画していきたいと考えています。」

橋上駅長の復興に向けた決意は固い。

さんてつ・北リアス緑市 実行委員会

住所：〒028-0051 岩手県久慈市川崎町13番1号 (久慈市勤労青少年ホーム内)
NPO 法人 やませデザイン会議内

TEL：0194-61-3229
FAX：0194-61-3230
E-mail：yamase@mx6.tiki.ne.jp
http://www.i-yamase.net/

【応募期間】
2011年11月1日～2012年8月31日までの期間、随時。

●申請に必要の書類はこちら
http://www.jnpoc.ne.jp/?p=1994

問合せ・応募先
特定非営利活動法人 市民社会創造ファンド
〒100-0004
東京都千代田区大手町2-12-1
新大手町ビル267-B
TEL：03-3510-1221
FAX：03-3510-1222
http://www.civilfund.org/
E-mail：ksakamoto@civilfund.org

助成金情報

「東日本大震災 現地NPO応援基金」
第2期助成

1. 助成の趣旨

「被災者の生活再建を支援する現地NPOの組織基盤強化」をテーマにした助成。
※ 組織基盤強化：今後の活動を充実していくために組織の力をつけていくこと。

NPOの人的基盤、財政的基盤、情報基盤など運営基盤の整備が主な課題。

2. 助成の対象となる団体

(1) 岩手県、宮城県、福島県において直接被災者の生活再建を支援する「現地NPO」
※ 現地NPO：各地域の市民が自発的に活動する民間非営利組織。
草の根の小さな任意団体を含み、法人格の有無や種類は問わない。
(2) (1)の活動を行う団体の「現地ネットワーク組織」または「現地中間支援組織」

3. 助成の概要

【助成期間】
応募日に応じて、1月、4月、7月、10月初日から1年以内

Volunteer spirit

【助成金額】

1件当たり500万円以内

【助成金使途】

人件費を含め組織基盤を強化するために必要な費用
人件費は、1人25万円/月を上限とした12カ月以内の給与を対象
(社会保険の団体負担分、通勤交通費等は対象外)

【応募方法】

応募用紙を日本NPOセンターのWEBサイト (http://www.jnpoc.ne.jp/?p=1994) からダウンロードし、必要事項を記入の上、応募先に郵送してください。